

平成29年度第3回ボランティア市民活動推進協議会 会議録

1. 開催日時 平成30年2月27日(火) 19時00分から21時00分まで
2. 場 所 四国中央市保健センター 1階 集団指導検診室
3. 出席者 (会 長) 前田 眞  
(副会長) 新田 浩介  
青木 ルリ、大西 裕之、川口 稔  
栗田 修平、笹山 久美子、宮崎 憲士  
(事務局) 市民交流課 課長 金崎 佐和子、守屋 伸康  
青木 大、木村 称久  
ボランティア市民活動センター 所長 河村 久仁彦  
越智 敦子、森実 恵子

4. 傍聴者 なし

5. 会議内容

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1) 第二次ボランティア市民活動推進計画

実施項目別事業評価 (資料①)

(2) 四国中央市ボランティア市民活動アンケート

市民・団体・企業意識調査 調査結果報告 (資料②・③・④)

(3) 第三次ボランティア市民活動推進計画

第三次計画の基本的な考え方(案) (資料⑤)

計画全体の構成(案) (資料⑥)

(4) その他

四国中央市災害ボランティア事前登録要綱について(資料⑦・⑧)

4. 閉会

6. 会議録

発言者	発言内容
会長	前田会長挨拶
	それでは（１）第二次ボランティア市民活動推進計画 実施項目別事業評価を事務局より願います。
事務局	〔（１）第二次ボランティア市民活動推進計画 実施項目別事業評価について、第二次四国中央市ボランティア市民活動推進計画 項目別評価（資料①）に基づき説明〕
会長	これについて質問はあるか。  (質疑なし)
会長	次に（２）四国中央市ボランティア市民活動アンケート 市民・団体・企業意識調査 調査結果報告を事務局より願います。
事務局	〔（２）四国中央市ボランティア市民活動アンケート 市民・団体・企業意識調査 調査結果（資料②・③・④）に基づき説明〕
会長	これについて質問はあるか。
委員	学生等が行っているクリーンデーは、ボランティアであるにも関わらず、本人がボランティアだと理解していない場合がある。そのため教育の分野で、行っている活動がボランティアだということを教えていく必要があるのではないか。
委員	ボランティアだと理解せず奉仕活動をしている人が多いことが、資料②の 6 ページ、問 4 に反映されて「全く活動をしたことがない」となっているのではないか。
会長	その点については、行っている活動がボランティアだということを自らで理解してもらうような啓発をしていく必要がある。ボランティアをしているという自覚をもってボランティア活動に取り組む事が大切である。
委員	資料②の 21 ページ、問 20 にあるボランティア活動への報酬について、ボランティアに関しては完全に無報酬ではないのか。
委員	自分は実際に活動しているが、報酬とは異なり、交通費としてもらう場合がある。
会長	どちらが正解というわけではない。活動する際に実費弁償程度の報酬があるのか、全くの無報酬なのか、情報提供をする必要がある。ボランティアそのものを全くの無償あるいは無報酬であるべきと定めるとボランティア活動の幅を狭めてしまう可能性がある。
委員	地域ボランティアや企業ボランティアに関しては交通費や食糧費等の報酬があり、災害ボランティアに関してのみ無償あるいは無報酬といった定義付けがあったほうが良いのではないか。

委員	ボランティアを始める理由として「余暇の時間を有意義に使うため」が 25% であるため、始めるきっかけがしっかりとあればボランティアに参加してくれるのではないかと。
委員	周りにボランティアに関する情報が少なく、ボランティアを始めるきっかけを掴めていないように感じる。
委員	資料①の(38)にあった「SNSを利用したボランティア情報の配信」は、他の自治体や行政、もしくはボランティアセンター等が実際に行っている事例はあるのか。
事務局	SNSを利用してボランティア等の情報を随時配信している自治体はある。他に災害時にのみSNSを利用して情報を配信している場合もある。若い世代の利用が多いSNSを利用して、きっかけ作りとして若い世代に届くような情報配信やアプローチ等を今後は行っていく必要がある。
委員	若い人がどういったきっかけでボランティアを始めるのか考えたときに、SNS等で情報を得るケースが多いのではないかと。SNS等で情報を得てボランティア活動に参加する流れは非常にシンプルでわかりやすく、良いのではないだろうか。
会長	松山市では、ボランティアについて一度登録をしてもらい、登録した人に向けてメールでボランティアに関する情報などの配信を行っている。
委員	若い世代はどういったボランティア活動を望んでいるのか。
委員	若い世代はボランティアをしたい気持ちがあっても、まず何をしたらいいのかわからないのではないかと。何をしたらいいのかという疑問に対する回答を行政サイドが汲み取り、情報提供を行うのが良いのではないかと。
委員	資料④の 16 ページ、問 12 で 41%の企業が「不要品の提供」を行うことが可能とあり、資料②の 25 ページ、問 24 では 27%の市民が「不要品の提供」を企業に期待しているという結果だが、この点は当市においてマッチングが成立するのではないかと。
会長	愛媛県のボランティアセンターでは、不要品の提供について、企業側と市民側の間で情報提供を行い、ロッカーや机、空調設備等のマッチングを実施している。
事務局	第三次計画に盛り込む予定であるが、当市でも情報提供等を行って、マッチングを実施することができるような制度を構築していきたいと考えている。
委員	資料④の 11 ページ、問 7 にある「ボランティア活動に取り組んだ結果として得られたと思う効果又は今後得られると思う効果について教えてください（複数回答可）」について、63%の企業が「地域社会とのコミュニケーション」と回答し、40%の企業が「従業員のモラルの向上」と多くを占めているが、まさにその通りでボランティアを行ったことによる達成感等は非常に強いものだと思う。
委員	各企業でボランティア活動に対する考え方や制度の充実について、格差が大きいのと感じる。ボランティア休暇のような制度があると企業側は参加しやすいのではないかと。

会長	CSRのような活動も含めて、ボランティア休暇に似た、企業の参加しやすい制度を顕彰制度や寄附等と併せて拡大していく必要がある。
委員	エコキャップやプルタブを集めている企業は多くあるが、それが最終的にどうなるのか、どういった効果を生むのかまだまだ認知されていないように感じる。 最終的にどうなるのか、どういった効果を生むのかを知ることで今以上に積極的に取り組んでもらえるようになるのではないかと。
会長	他に意見はあるか。  (質疑なし)
会長	次に(3)第三次ボランティア市民活動推進計画 第三次計画の基本的な考え方(案)、計画全体の構成(案)を事務局より願います。
事務局	〔(3)第三次ボランティア市民活動推進計画 四国中央市第三次ボランティア市民活動推進計画の基本的な考え方(資料⑤)に基づき説明、四国中央市第三次ボランティア市民活動推進計画 構成案(資料⑥)に基づき説明〕
会長	これについて質問はあるか。
委員	「きっかけづくりをサポート」にボランティア情報や活動団体の紹介などを行う情報誌を創刊とあるが、情報は収集、加工、提供となり、提供に目が行きがちだが、収集や加工も大切ではないか。どのようなボランティアをしているのか、何が出来たらボランティアは成立するのか、具体的にボランティアとして何を求めているのかを示すことができればいいのではないかと。
事務局	多様なチャンネルを使って、鮮度が高い状態で情報を届けられるような発信方法を検討している。また、情報を得た人が団体の行ったボランティア活動を理解し、自らがボランティアを依頼することができるようなきっかけとなる情報を届けたい。
委員	今年度に学生等が行ったボランティア活動について、感想を聞きに行ったが「わからない」との回答だった。自らが行ったボランティア活動に対して実感や達成感を感じていないようだったので、達成感を残していくような情報発信が必要ではないかと。
会長	団体が振り返りとしてボランティアを行った人たちで反省会を行うのが本当は望ましい。その反省会は5分ほどでも良い。その反省会の結果を各関係機関に発信して共有するのが良い。
委員	ボランティア市民活動センターに登録する種別として、現在は個人登録と団体登録があると思うが、新たに企業向けの登録を増設してもいいのではないかと。企業としてはボランティアを推進していることを公言できるので良いと思うがどうだろうか。
事務局	ボランティア市民活動センターとしても、企業としてボランティア活動に取り組むことが可能な場合は、企業としてボランティア登録をしてもらおうような制度設計を検討している。

会長	他に意見はあるか。  (質疑なし)
会長	次に(4)その他 四国中央市災害ボランティア事前登録要綱について事務局より願います。
事務局	[(4) その他 四国中央市災害ボランティア事前登録要綱の改正について(資料⑦)に基づき説明、四国中央市災害ボランティア事前登録要綱(資料⑧)に基づき説明]
会長	これについて質問はあるか。  (質疑なし)
会長	ではこれにて、平成29年度第3回ボランティア市民活動推進協議会を閉会とする。  閉 会